
『観光クラウドWG』 活動報告

2011年12月22日

ソフトバンクテレコム株式会社

1. WGの概要

目標

観光立国の実現は地域経済の活性化、雇用機会の創出、国際相互理解の増進等に資するとされ、我が国の21世紀の国づくりの柱として、今後ますます取り組みを強化する政府方針となっている。この分野において、ICT技術を活用することで、中小を含む観光関連事業者が低価格で効率的に各観光サービスの提供ができる「観光クラウド」モデル作りの検討を行うこととする。

課題認識

安心安全面も含め、国内の外国人観光客向けの多言語案内が絶対的に不足しており、地方自治体や中小事業者が個別に用意するのも経済的に困難である。また、観光客誘致のための情報内容や発信経路が大きく変化して来ているため、観光コンテンツの提供環境、規格形式、権利処理の問題から、利活用の際に障壁が存在する。さらに、震災後の自粛風潮や風評被害も深刻である。

具体的検討項目

STEP1:情報収集

- ・外国人観光客の受入環境基盤。
- ・観光コンテンツの利活用課題。
- ・これまでのICT観光政策の検証。
- ・震災後の観光状況の把握。

STEP2:課題検討

- ①多言語コンテンツの制作とその利用に関するルール作り、普及促進。
- ②自走式ビジネスモデルの構築。
- ③回遊調査、消費分析、安心安全の観光街作り等の研究。

STEP3:具体化

- ①標準化等の公開と普及促進。
- ②モデル地域における実証実験。
- ③関連各省への政策提言検討。
- ④地域観光の復興と振興。

導入効果(目標)

観光事業分野にICTを活用することで、外国人観光客の訪問数を増加させるとともに地域活性化につなげることを目標とする。

2.メンバー(2011年10月22日現在)

No.	団体名
主査	ソフトバンクテレコム株式会社
*	総務省 情報通信政策課
*	国土交通省観光庁 国際観光政策課
*	北海道
*	京都市
*	沖縄県
*	日本政府観光局
*	社団法人日本観光振興協会
1	独立行政法人情報通信研究機構
2	財団法人京都高度技術研究所
3	国立情報学研究所
4	京都大学
5	早稲田大学
6	東京工科大学
7	北海商科大学
8	社団法人北海道観光振興機構
9	自動車旅行推進機構カーたびクラウド部会
10	株式会社アイアム
11	株式会社インデックス沖縄
12	株式会社うぶすな
13	株式会社ATR-Promotions
14	株式会社A-MAX
15	MKT-SYSTEM
16	沖縄DFS株式会社
17	株式会社キャンドウコンセプト
18	京都フラワーツーリズム合同会社
19	協和テクノロジズ株式会社

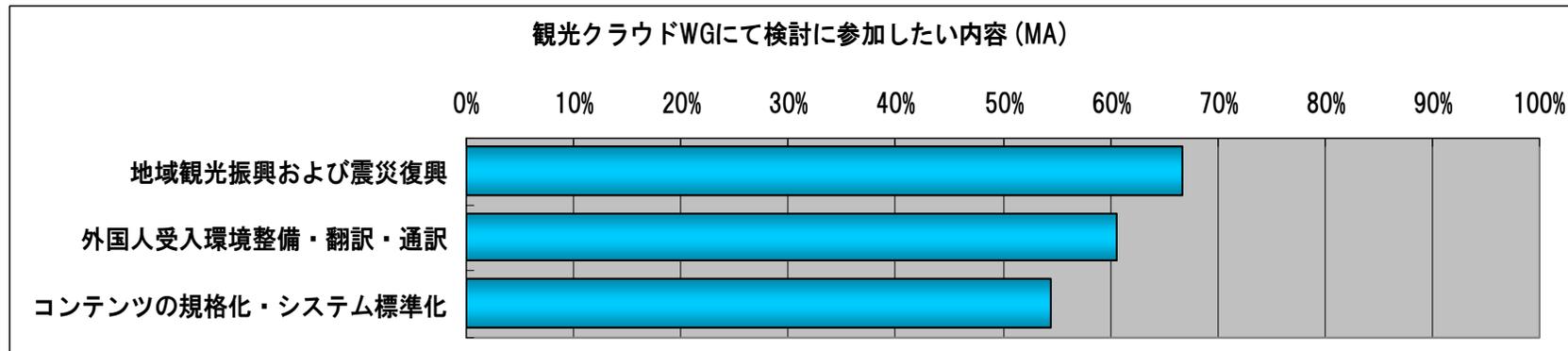
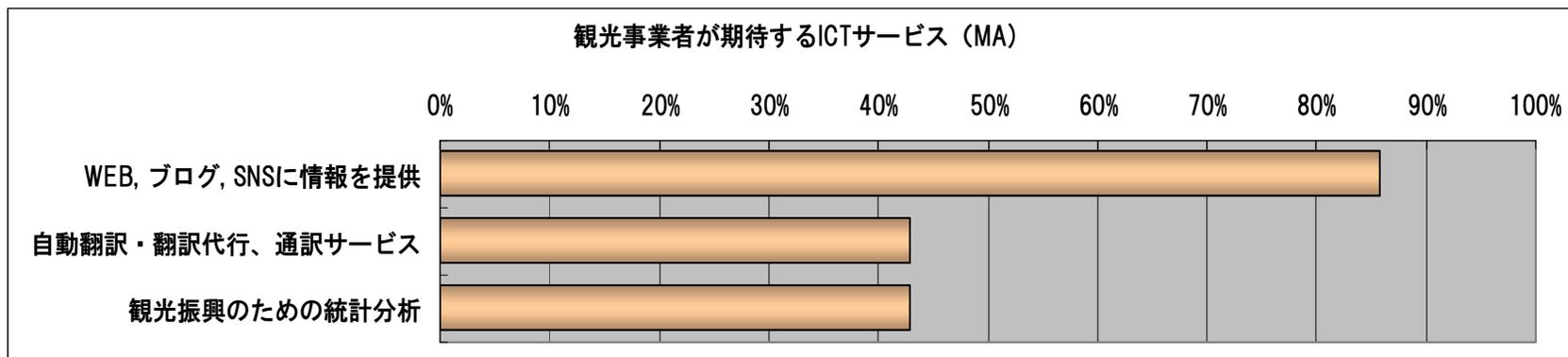
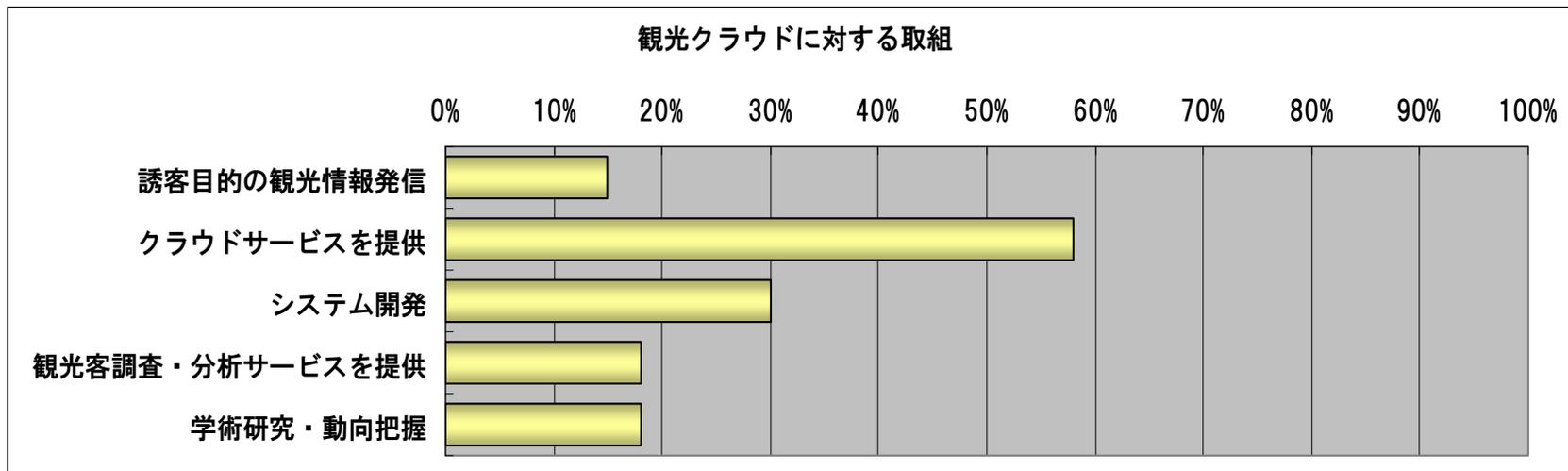
*印はオブザーバー参加

No.	団体名
23	株式会社恵和ビジネス
24	株式会社ジェイティービー
25	株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル
26	株式会社JTBコミュニケーションズ
27	株式会社セールスフォース・ドットコム
28	ソフトバンクペイメントサービス株式会社
29	大日本印刷株式会社
30	地域情報エージェント株式会社
31	株式会社電通
32	株式会社ニーニャス
33	日本写真印刷株式会社
34	日本システム開発株式会社
35	日本電気株式会社
36	日本電信電話株式会社
37	株式会社日本能率協会総合研究所
38	日本ユニシス株式会社
39	株式会社野村総合研究所
40	株式会社はとバス
41	株式会社ヴァル研究所
42	東日本高速道路株式会社
43	株式会社日立ソリューションズ
44	株式会社フォネックス・コミュニケーションズ
45	富士株式会社
46	富士通株式会社
47	株式会社フライトシステムコンサルティング
48	株式会社まいど日本
49	株式会社三菱総合研究所

3.WG活動概要

	第一回	第二回
開催日	2011年10月21日(金)	2011年11月28日(月)
場所	タイム24ビル(東京ビッグサイト関連施設)	ソフトバンクテレコム汐留本社11F会議室
主な議題	<ul style="list-style-type: none"> •課題抽出アンケート調査報告 •観光クラウドWGへの期待についての講演と意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> •課題解決のための検討 •先端的取組事例視察の検討
主な議論内容の結果	<p>【課題抽出結果】</p> <p>観光統計情報関連 ※リアルタイム集計、可視化、分析システム。</p> <p>翻訳や通訳関連 ※自動翻訳の精度、日本語原文自体の問題。</p> <p>観光コンテンツの流通関連 ※コンテンツ所有者と情報発信者の立場の違い。</p> <p>多様化する観光コンテンツと提供方法 ※規格化、標準化、相互互換のルール。</p> <p>地域観光振興の課題 ※地域主体化、自立化(独立採算性)</p> <p>被災地の観光事業復興関連 ※風評被害対策。</p> <p>安心安全な観光サービスと防災減災 ※スマートタウン構想や緊急時非難誘導の研究。</p> <p>外国人観光客向けの通信環境 ※Wi-Fiやモバイルデータ通信の普及改善。</p>	<p>【地域観光振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> •事業主体の担い手となる地域の方々が主体性を持つことが重要。現状、主体となる地域の担い手が少なくベンダーや自治体が多いことが課題。 •地域全体で観光資源を磨き、情報を発信し、薄く広くコストをシェアするような体制を取れば、ビジネスに近づくのではないか。 •インターネットや携帯を利用してどのように多様な情報を発信するか、誰にでも利用できるICT環境の整備が重要ではないか。 •商店街の手作りマップなどを活用すべきではないか。 <p>【訪日外国人向けの課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> •海外の外国人を日本へ呼び込むためにどうしたらよいか、という観点が抜けているのではないか。 •観光庁が、306箇所あるV案内所(ビジットジャパン案内所)にて実施したアンケートでは、外国人が一番困ったことの第1位がインターネット接続環境であった。
決定事項		分科会を2つ(技術・システムSWG、ビジネスSWG)設立すること

4. 情報収集①課題抽出アンケート調査結果(第一回WG資料より)



情報収集②観光クラウドWGへの期待(第一回講演者資料より)

	期待①	期待②	期待③
タイトル	H22年度沖縄県観光情報システムモデル構築事業 ～沖縄を訪れる国内外の旅行客のための新サービス～	観光クラウドWGに対する期待と課題	地域生産サービス消費型観光産業と暮らしの安全・安心確保につなぐ地域防災(減災)基盤の連携による観光・防災(減災)情報連携クラウドへの期待
紹介者	株式会社ジェイティービー 山下真輝	財)京都高度技術研究所 山内英之	国立情報学研究所 曾根原登
期待することなど	沖縄県で平成22年度に実施されたモデル事業を網羅的に紹介。「SNSプロモーション」・「コンタクトセンター」・「iPhoneレンタル」・「多言語観光情報データベース」・「Wi-Fiスポット設置」等、外国人観光客受け入れ体制の整備を実施。コンタクトセンターでは、月間平均約800件以上のコールを受け、空港での外国人観光客へのiPhoneレンタルは延べ1000人以上への貸し出しを実施し、約1000件の多言語観光情報が閲覧可能な環境が整備でき、「Wi-Fiスポット設置」も約300拠点に設置が完了しました。	<p>【課題①コンテンツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> •分散されたコンテンツと分散された権利 •コンテンツの賞味期限と保守 •差別化できないコンテンツ •地域慣習(法的根拠のない権利意識) <p>【課題②継続性】</p> <ul style="list-style-type: none"> •ランニングコスト •ビジネスモデル <p>【課題③インフラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> •景観条例による制約 •交通問題と公共交通 	<ul style="list-style-type: none"> •想定外の事態への対応を、事前に厳密に検討する社会コストは高い(コンプライアンスコスト、イノベーション機会損失)。 •個々人が、自律分散的に適応可能な社会システムが望まれている。 •情報システム運用からは、緊急時だけ起動するようなものはほとんど役に立たず、常に利用されるような社会システムが望ましい。 •Web/SNS/モバイル・ライフログ・データを用い、観光と防災が両立するリアルタイム・データ中心政策決定支援クラウド・システム技術の確立に期待したい。

情報収集③その他の意見

- 観光入込統計の国の集計が遅い。
※リアルタイムで誰でも閲覧できる分析システムが必要。
- 翻訳に関して、自動翻訳は現状使える代物ではない。
※ネイティブ翻訳を入れても、そもそも翻訳される日本語文章から考えないと相手国には通じない。
- 観光コンテンツの流通を図るためのモデル提唱
※コンテンツホルダやサービス事業者の立場の理解が前提。
- 着地における地域主体の観光情報発信
- 外国人観光客のモバイル、公衆Wi-Fiの普及改善。

情報収集①、②、③

①観光統計情報関連

※リアルタイム集計、可視化、分析システム。

②翻訳や通訳関連

※自動翻訳の精度、日本語原文自体の問題。

③観光コンテンツの流通関連

※コンテンツ所有者と情報発信者の立場の違い。

④多様化する観光コンテンツと提供方法

※規格化、標準化、相互互換のルール。

⑤地域観光振興の課題

※地域主体化、自立化(独立採算性)

⑥被災地の観光事業復興関連

※風評被害対策。

⑦安心安全な観光サービスと防災減災

※スマートタウン構想や緊急時非難誘導の研究。

⑧外国人観光客向けの通信環境

※Wi-Fiやモバイルデータ通信の普及改善。

5. 課題検討(第二回WG資料より)

	参照事例①	参照事例②	参照事例③	参照事例④	参照事例⑤
タイトル	観光クラウド展開へのヒント	ちずぶらり ～絵地図とGPSで街歩き～	観光の情報化を目指す京都の取組	Smart Life Innovation@Island City参加報告	ITUデジタルサイネージワークショップについて
紹介者	東京工科大学片柳研究所長 小川高志	ATR-Promotions株式会社 高橋真知	ITコンソーシアム京都 笠原秀一	ソフトバンクテレコム株式会社 吉井英樹	日本電信電話株式会社 村本健一
概要	地域観光振興とICTの活用	スマートフォン上で、絵地図や古地図上に現在地を表示するアプリケーションのご紹介	京都における観光情報基盤のご紹介	九州大学大学院芸術工学研究主催のシンポジウム参加報告	ITUデジタルサイネージワークショップのご紹介
紹介事例など	<p>①山中温泉お散歩号街全体の魅力の発信と観光客の誘導に地域で取り組んだ成功事例</p> <p>②東海陶磁器4産地産業観光広域連携産業観光というコンセプトを提唱した事例</p> <p>③四国地域 アートによる地域づくり</p> <p>アートや映画、コンテンツによる観光地作りの事例</p>	<p>①高遠ぶらり 長野県伊那市高遠町の古地図や絵巻物上に現在地を表示する。ウォークラリーイベントも開催。</p> <p>②震災記憶地図 イラストマップやハザードマップなどを表示。支援地図以外に、震災の記憶を残す地図も。</p>	<p>観光旅行の環境変化(団体旅行から個人旅行、日本人から多国籍化、ガイドブックからスマートフォン)を前提に、アクションプランを練っている状況説明。</p> <p>京都市・京都府・周辺自治体・観光団体を中心に、観光情報基盤の整備を推進することを目指している。</p>	<p>①メディアデモクラシー</p> <p>コンテンツの制作や配信が一部の人々や企業の独占から解放されて来ている事例の紹介</p> <p>②メディア(デザイン)が誘発する観光</p> <p>③スマートクラウドとビッグデータ</p>	<p>ITU(国際電気通信連合)主催、総務省及びデジタルサイネージコンソーシアム共催のワークショップの紹介</p> <p>開催日: 平成23年12月13日(火)～平成23年12月14日(水)</p> <p>会場: 富士ソフトアキバプラザ5階アキバホール</p>

6. 分科会の設立(第二回SWGで決定)

- 多様化する観光コンテンツと提供方法
 - ※規格化、標準化、相互互換のルール。
 - 翻訳や通訳関連
 - ※自動翻訳の精度、日本語原文自体の問題。
 - 安心安全な観光サービスと防災減災
 - ※スマートタウン構想や緊急時非難誘導の研究。
 - 外国人観光客向けの通信環境
 - ※Wi-Fiやモバイルデータ通信の普及改善。
-
- 観光コンテンツの流通関連
 - ※コンテンツ所有者と情報発信者の立場の違い。
 - 地域観光振興の課題
 - ※地域主体化、自立化(独立採算性)
 - 被災地の観光事業復興関連
 - ※風評被害対策。
 - 観光統計情報関連
 - ※リアルタイム集計、可視化、分析システム。

1. 技術・システムSWG

2. ビジネスSWG

現在、準備中

7. 2011年度スケジュールと活動状況

2011年度

2011年度									
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
JCCイベント	○第2回 総会					○第3回 総会			
観光クラウドWG イベント	○設立	○参加募集		▲10/21 設立総会 (WG①)	▲11/28 WG②	●WG③ (延期)	●WG③		●WG④
				←-- ■ ICT観光シンポ① or 現地視察 ■ -->					
活動内容				● STEP1: 情報収集	● STEP2: 課題検討	● STEP3: 具体化(解決策検討・提言作成)			
				●10月 課題抽出事前 アンケート	▲11/22 九州大学・ 福岡市シンポ	▲12/13,14 ITU デジタル・ サイネージ国際WS	●12月 SWG準備		●23年度 最終報告